



きれいな学校 輝く笑顔 ~J(授業)A(挨拶)S(清掃)MI(身だしなみ)N(仲間)~

# 大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

## 強いチームの作り方第2弾!! 「応援されるチームになれ!」「良き先輩になれ!」

校長 新井 敬二郎

11月1日(金)に合唱祭を大盛況のうちに終えることができました。200名を超える保護者の皆様のご来場ありがとうございました。初めての「彩の国さいたま芸術劇場」での取組でしたが、音楽ホールというすばらしい舞台上子どもたちは緊張しながらも自分たちの力を存分に発揮し、良い思い出を作ることができました。

また、先日某先生が廊下に画びょうをこぼしてしまい拾っていると、そっと手を差し伸べて一緒に拾ってくれた3年生の女子生徒を見かけました。困っているとすぐに手を差し出してくれる心優しい行動に胸が熱くなりました。ありがとう、感謝です、さすが大中学生です。

早いもので今年も12月となり、3年生は「自分の進路選択」をする大事な時期となっています。ぜひ三者面談で担任とよく話し合っていたいただきたいと思います。私も生徒との校長面談で相談に乗りたいと思います。

さて、今回は「強いチームの作り方2」として、「人を動かす高校野球監督の名言」(ベースボールマガジン社)の中からみなさんにお話しします。甲子園で優勝するような名監督は、さすがと思われる「名言」をたくさん残しています。何度も失敗して、その中から生まれた**真実の言葉**ですから重みがあります。私もこの本を読みながら、「そうだよなあ。」「なるほどなあ。」と何度も感心しながら、又部活指導をやってみたくなりました。顧問の先生方や外部指導者の方々にもぜひ読んでいただきたいと思います。

○ふだんの練習やミーティングで教えてもいないのに、試合で失敗すると「何やってるんだ」と怒鳴り声をあげる指導者がいる。「俺は悪くない。できない選手が悪い」とアピールし、自分を守ろうとしているように見える。それでは選手はついてこない。どんなにつらくても「選手に恥ずかしい思いをさせられない」と思ってやっていたら、必ず選手はついてくる。自分のためではなく、選手のため。(駒大苫小牧・香田誉志史)

○いいものはいい。ダメなものはダメ。決まりを守らなかつたり、目上の人にふざけた態度をとるなどすれば許さない。だが、どんな小さなことでもいいことをすればほめる。評価する。ほめたら次の日からグラウンドでの輝きが違う。それが自信になるんじゃないですかね。(日大三・小倉全由)

○どんな素晴らしい助言をしても試合終了後では遅い 三振した後に「インコースにストレートが来たんだから、次はアウトコースにスライダーだろ」と言っても意味がない。ホームランを打たれた後に、「あのバッターは低めの変化球は打てない」と言っても遅い。どんなことを言っても、事が起こった後ではどうしようもないのだ。私が心掛けているのは、大ピンチの前にアドバイスを送ること。(今治西・大野康哉)

○三つの戦い 君たちはまず監督との戦いが始まり、それを乗り越えて己との戦いに打ち勝ち、そして最終的には敵との戦いがあることを忘れないで欲しい。(愛工大名電・倉野光生) →次ページへ

### 強いチームの作り方2

○「あの野郎にいじめられた」より、「あの先輩によくしてもらった」と言われるようになれ

(日大三・小倉全由)

○負けて楽しいわけねえんだよ

(常総学院・木内幸男)

○教えてできないのは選手にも責任がある。教えてないのにできているのは指導者のおごりだ

(今治西・大野康哉)

○「ウチはグラウンドが狭い」と言った時点で負け自分が失敗するときの布石を打ってるようなもんでしょ

(鹿児島工・中迫俊明)

<「人を動かす高校野球監督の名言」より>

○他校同士の試合を見ていて、いつのまにか公立進学校を応援している自分に気づいた。判官びいきじゃないけど、自然と一生懸命やってるチームを応援したくなる。元気があったり、全力で走ったり、笑顔が絶えなかったり、一つのアウトを大喜びしてやってるチーム。かたや監督がしかめっ面をして頭ごなしに怒って、ロボットみたいに動いて、つらそうに修行僧みたいにやってる。これだなど。それを見てから、**自分も応援されるようなチームを作ろう**と思いました。(佐賀北・百崎敏克)

○監督の期待は言葉に表れる。能力があると認め、期待している選手にやる気がなかったり、結果が出なかったりすると、自然ときつい言葉になってしまう。逆に、それほど期待をしていない選手には、「想い」がない分、優しくなる。**期待が大きければ大きいほど、求めるものが大きくなってしまいうんだよな。**

(常総学院・木内幸男)

○帽子をいじる、まゆ毛をいじるっていうのは、今のヤツからすれば、ただの流行で済んじゃうんだと思うんですよね。「みんなやってますよ。何がおかしいんですか」って。でも俺からすると、そういうふうにするしか自分の表現方法はないのか。虚勢張らないと野球できないのかって。そういうもので勝負して、相手に威圧感を与えようなんて言うのは愚の骨頂。**何で自分の光で勝負できないのだろう。**(聖光学院・斉藤智也)



○失敗の考え方 **失敗を成功につなげる選手は一流 責任を転換して失敗を繰り返すのは二流 三流は自分が失敗したことすら気づかない** 失敗を活かす人間と失敗でダメになる人間と2通りいる 失敗とは成功の前であきらめてしまうこと 成功の反対は失敗ではなく何もしないこと 何度も失敗し、その中からどれだけのことを学び、そして活かすか **反省は過去に向かってするものでなく、未来に向かって行うもの** 失敗には原因がある その原因は成功へのヒントである (花巻東・佐々木洋)

○**運があると思ってるヤツじゃないと運は回って来ない** 自分には運がある。今までそう信じてきた。広陵時代は一番・ショートで春夏連続甲子園出場。広陵のコーチになった後も、1年生大会で監督を務め、3年連続優勝。「勝負運がある」ということで監督に抜擢された。そして就任1年目で中国大会優勝を果たし、センバツに出場。さらに65年ぶりの優勝まで成し遂げた。「運がいいんですよ。プレッシャーは全然なかったですね。怖いもの知らずという言葉が一番適切。何に対してもビビらなかったですね」(広陵・中井哲之)

○**どの子も活躍するわけではなくてどの子も絶対ミスをするわけですよ** だから、この子ならしょうがないという子を作りたい 高校野球のベンチ入りメンバーは18人と決まっている。私は、子どもらに「選ぶのは自分以外の他人だ」と言っている。自分や自分の両親の評価というのはまったく当てにならない。人間は自分の事が一番わからない。でも周りの人はすごくわかってる。どんなときでも手を抜かないとか、人が困ったら手を貸すとか、やさしいとか、間違ったことがあったら本気で怒ってくれるとか、魅力があるからその人が選ばれるんだと思うんです。ただ技術があるからだけで選ぶことは絶対にしない。(広陵・中井哲之)

○**日本で二番目に高い山は何や？ オレも知らん(笑)** 天国と地獄。この表現がぴったりと当てはまるのが地方大会の決勝だ。勝ったら甲子園に行けるが、負けた方はまさに地獄。泣き崩れるしかない。やはり、決勝戦は特別である。だから、子どもらの気持ちを楽にした後、勝利への執念をかき立てる。「お前ら、日本で一番高い山は何や？」「富士山です」「そうやな。小学生でも言いよるな」「じゃあ、二番目に高い山は何や？」「……」「オレも知らん。世間はそんなもんやぞ。二番というの、覚えてもらえへんのか」「**天国へのチケットは、勝ちたい気持ちが強い方がつかむのだ。**(北大津・宮崎裕也)



たくさんのお言葉の中から一部を紹介しました。いかがですか、今の自分に置き換えるとどんな感想が聞けますか。強いチームを作るための秘訣、みなさんに伝わりましたか。

さて秋の読書週間は終わりますが、まだまだ夜長は続きます。ぜひ自分を高める本を見つけて、その中の気に入った語句を自分の「信条」にして欲しいと思います。あなたの「信条」は何ですか、聞かせてください。